

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094900042		
法人名	有限会社 オアシスの会サポートセンター		
事業所名	グループホーム オアシス		
所在地	〒807-0133 福岡県遠賀郡芦屋町大字芦屋1233番地3 Tel 093-222-1117		
自己評価作成日	令和05年11月23日	評価結果確定日	令和06年02月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年02月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由に日常生活をすごしていただき、個人個人出来る範囲でのゲームなどのレクレーションを取り入れています。また、無理のない範囲での体操や、歩行訓練も取り入れたおります。地域交流の行事や、季節感が感じられるような外出や、夕食を通じて、生活のマンネリ化に気をつけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「オアシス」は、地域密着型事業所として10年前に開設した定員9名のグループホームである。家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりのペースでゆったりと生活出来る支援に取り組んでいる。新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、季節の花見やドライブ、地域のイベントに出かけ、利用者の気分転換を図っている。ホームドクターによる定期往診と訪問看護師、介護職員が連携し24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。利用者が楽しみにしている食事は、旬の食材を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供し、さつまいもを蒸かしたりぜんざいを作って、食を楽しめるよう支援している。ベテラン職員が多く代表の介護に対する熱い思いを、職員一人ひとりが理解して、利用者本位の介護サービスに取り組み、元気で明るい笑顔の利用者を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係を構築している、グループホーム「オアシス」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の支援の中、個人個人のペースをつかみ、決して無理強いをすることなく、ともに笑い、共有する中で、一つの家族として、実践につなげている	基本理念を見やすい場所に掲示し、毎月の職員ミーティング時に全員で唱和して、理念の意義や目的を理解している。職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、生活習慣や体調に合わせてゆったりと生活できるように支援し、利用者の生きがいに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で、地区代表者との連携を通じて地域行事にも、参加できる環境づくりをしている。	新型コロナ5類移行に伴ない、区長を始め地域の方から、地域の行事や活動、イベントへの誘いを受け、尾籠、夏祭り、廃品回収等、参加できそうな行事には積極的に参加して行くことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域とのつながりはあるが、地域貢献についてはまだ達成できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区代表者とのつながりがあり、行事にも参加させて頂けるご配慮をいただいている。また、地域包括支援センターにも、成年後見などの相談もしている	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたので、コロナ状況を判断しながら、運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、区長、副区長、民生・児童委員、行政職員、家族代表の参加を得て実施して行くことを検討している。会議では、ホーム運営や取り組み、利用者状況、ヒヤリハット、事故等の報告を行い、参加委員から意見や質問を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に地域包括支援センターと密に連携を行い、入居者の生活実態を相談すること。また、生活保護の担当者にも、生活実態の相談をすることもある	管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政窓口で電話やメールで報告し介護の疑問点、困難事例を相談する等、連携を図っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を報告し、意見交換を行い協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状の制度を理解して、身体拘束をしないようにしている	身体拘束について職員会議の中で、学ぶ機会を設け、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証を行い、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。運営推進会議の中で、身体拘束委員会からの報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の身体拘束同様、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターに相談を行い、実践している	権利擁護の制度について、外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員一人ひとりの周知を図っている。制度に関するパンフレットや資料を用意し、必要時には、制度の内容や申請手続きについて説明を行い、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。現在、制度活用の利用者がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得していただき、契約、解約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に、ご家族様からの意見、要望については、慎重に取り扱い、運営に反映させるようにしている。	ホームの日常会話の中から、職員は利用者の意見や要望の把握に努めている。家族面会時や運営推進会議に参加の時に、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で話し合い、出来る事から速やかにホーム運営や利用者の介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に反映できるように、努力している	職員ミーティングを月1回開催し、利用者一人ひとりの小さな変化や気づきを話し合い、家族や主治医と今後の介護方針を検討し、事故、ヒヤリハットの振り返りも行っている。また、運営や業務についての意見や提案が活発に出され、出された意見をできるだけ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、職員からの意見にも傾聴し、環境づくりに努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用等、資格の有無にかかわらず採用を行い、実践の場において、指導、資格の奨励を行っている	職員の募集は、年齢や性別の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。代表や管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所への役割分担や、一人ひとりの事情を汲んだ勤務時間に配慮して働きやすい職場環境を整え、職員が定着している落ち着いたあるグループホームである。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に、職員ミーティングを開催、入居者の状況や問題点があれば、関わり方等も助言している	職員会議の中で、利用者の人権を守る介護サービスについて常に話し合い、意識づけを行っている。職員一人ひとりが、利用者の個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して自由に暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記を含め、社内研修や、外部での研修も奨励している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の勉強会にも、積極的に参加を行い、同業他社とも、意見交換を行い、自社の質の向上にも反映できるよう取り組んでいる		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に声掛けを行い、本人とのコミュニケーションづくりに励み、毎日の生活が、我が家での生活に近づくように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所検討から、入所決定に至るまで、懇切手稲にご説明させていただき、納得いただけるよう、話し合いをします。また、入所後も、面会の際や、ご家族へのご連絡等においても、要望等も発して頂ける環境づくりもしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所決定後、アセスメントを通じ、切迫している状況の解決を実施、その後、継続もしくは中止を判断している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者、職員とが、ひとつ屋根の下、お互いをひとつの家族と感じていただき、お一人お一人の能力に応じたことに取り組んでいただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を抜きにしては、解決できないこともあり、日ごろから、良好な関係性を築けるよう、ご連絡し、ご本人の施設での生活が安定するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入られてからも、認知症は進行しては行きますが、それまで生活をされてきた思いを大切にさせていただきたく、知人友人の面会等も行っていません	利用者の家族、親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり寛いで話せる場所やお茶を提供し、また訪問してもらえるように声をかけているが、コロナ禍の中で現在は自粛している。また、ホームで一緒に過ごす利用者同士、利用者と職員もコミュニケーションを取りながら馴染みの関係となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、ホールにて全員が集える場所の確保をしている。また、簡単な体操や、個人個人の特性を考慮してレクリエーションなども行い、利用者同士の触れ合い、職員との触れ合いも行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、困ったことや相談にも応じる姿勢はあるが、現在まで実績はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれの、性格や嗜好も考慮して、対応している	利用者の生活歴や環境、習慣、嗜好等を入居時に聴き取り、アセスメントに記録して職員間で情報を共有し、日々の介護サービスに反映させている。また、意向表出が困難な利用者には、家族に相談しながら、職員が利用者に寄り添い、話しかけ、利用者の表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前に、アセスメントの結果に、全職員が目を通して、入居者の人間像の把握につとめている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護度、病歴を考慮して、個人個人の生活パターンの個別化にと務めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前アセスメント、担当者会議、職員ミーティングなどを通して、課題の検討にと努めている	担当職員は、利用者や家族と話し合う機会を設け、意見や要望、心配な事等を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人の記録や、申し送りをを行い、情報の共有や、見直しに努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人の支援において、事業所の体制を考慮しても、多機能化に玄関を感じている。今後の課題である		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域におけるイベントや、行政主催の交流会にも、積極的に参加を試みている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時において、事業所との関係があるかかりつけ医のご紹介を行うが、無理強いを押し付けることなく納得の置ける医療機関を継続していただく。多数の入居者は、事業所との関係のあるかかりつけ医に変わってはいいただいている。	入居時に、利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決めている。協力医療機関医師による月2回の往診と緊急時の対応、病院看護師、訪問看護師、薬剤師、介護職員の連携で、24時間安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、実施できていません		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、アセスメントの提供や、日々の身体状況をお伝えをしている。また、病院からの連絡においても、情報交換や、退院後の医療行為等の有無の確認をず時行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、担当者会議や契約の時点において、重度化、ターミナル等の説明を行い、納得をいただいています。ただし、入居されて、予測される時点において、再度話し合いを行い、具体的な支援を確認することをお伝えしています。	契約時に利用者や家族に、重度化に向けたホームの方針を説明し、承諾を得ている。重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を決定し関係者で共有して、利用者が安心して終末期を過ごすことのできる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時、管理者もしくは計画作成に一報をいれて、指示を仰ぐよう伝達しています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練等を、すべての職員が体験できるよう配慮しています。	防災訓練を年2回、昼夜を想定して実施し、1回は消防署の参加を得ている。通報装置や消火器の使い方を確認し、利用者全員を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。また、非常食や飲料水、非常用備品を用意し、非常災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重視して、声掛けや接する態度も丁寧に対応している。	利用者のプライバシーが損なわれていないかを、職員会議やカンファレンスの中で振り返り、言葉遣いや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務について代表が職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人が、自己決定できるよう選択肢を掘り下げて、提案を行い、意志決定できるよう動機づけを支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースに合わせ、日中等の過ごし方を、支援する側の都合で、崩すことなく過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あくまでも選択肢の一環として、季節感が感じられるような身だしなみの提案を行い、押し付けることなく自己本位のもとに支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の生活の中で、嗜好をお聞きたり、出来る範囲において、配膳、テーブル拭きをお願いしている。	利用者の楽しみな食事は、旬の食材を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供している。職員が家で取れたさつまいもを持ってきて蒸かして食べたり、ぜんざいを作る等、利用者の笑顔に繋がる支援に取り組んでいる。また、外食にもよく出かけ、普段食べられないものを食べる機会を大切にしていたが、コロナ禍で現在は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給については、三食の合間に、2回追加して、一日5回、水分補給に時間がかかる方には、定時より早い時間から提供をしている。また、食事については、体格、嗜好、基礎疾患等から、考えて適量を接種していただき、時間がかかる方は、定時より早く提供する		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の方、特に一部介助の方については、義歯が外せるもしくは外せない、歯の表面はできるが、裏はできないなど、個人個人の特性により、支援をしている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員の排泄の間隔を把握しているが、特に、失禁を減らすため、定期的なトイレ誘導、声掛けを行い、排泄の自立に向け、支援をしている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるように支援している。また、夜間のオムツやパットの使用方法については、職員間で対応を話し合いながら工夫を重ね、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含んだ食材や、水分摂取を多く取り入れるよう推奨し、自然排便に繋がるよう支援しているが、繋がらない場合、薬剤に頼る場合もある		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	理想は、個人個人のタイミングに合わせて入浴して頂ければ幸いだが、現実には曜日や時間を設定している	入浴は、利用者の希望や体調に合わせ、週3回の支援を基本としているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、難しい場合は無理強いせず、清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個人個人のペースにて休息したり、テレビを視聴されたり、自由に過ごされている。夜間は、ぐっすり眠れるよう、睡眠導入剤を処方されている方もおられます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基礎疾患をお持ちの方もおられますので、誤薬、飲ませ忘れのないよう、薬の用法、効果などを理解して、服薬の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の経度、中度、重度はあっても、施設での生活に生きがいを見いだせる支援をしている。役割意識がある方、出来ない方、能力に応じた楽しみ方ができるように支援をしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の職員配置も余裕のないものであり、その日の外出は不可能なため、普段から行きたいところ、行ってみたいところなどを傾聴し、計画をたて、外出するよう支援をしている	コロナ対策以前は、近場で楽しめる場所が多い地の利を生かし、航空ショーや芦屋砂の祭典、山笠や花火大会の見学に出かけたり、季節の花見、外食や買い物等、積極的に外出の支援に取り組むことで気分転換を図り、利用者の笑顔に繋げていたが、現在は自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができない方が多いため、所持はさせておらず、外出先で、品物の欲求がある場合は、購入できるよう支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聴きたいなどの訴えがある場合、事業所の電話で本人が連絡をしたり、年始、暑中見舞いなど宛名を書いていただいたりしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、不快感や混乱を招かないよう、毎日朝、夕方の清掃を行い、温度管理、季節感が感じられる装飾品、テーブルの配置などに気を付けて、居心地よく過ごして頂ける空間を目指しています。	利用者一人ひとりに合わせて、テーブルや椅子の配置を決めて、それぞれが心地よく過ごせるよう配慮している。職員手作りの作品や季節の飾り物で家庭的な雰囲気を出し、笑い声が溢れる楽しい共用空間である。また、朝夕の掃除を徹底して行い、臭いがなく清潔で気持ちよく過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにおいて、食事をするスペースと、団らんやテレビを見たりするところを、分けており、独りになれる場所と多人数で過ごせる場所の確保ができています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅にて使っていた物品を持ち込んでいただき、自宅の部屋に少しでも近づけるよう配慮している。また、衣類もご家族に相談し、夏物と冬物の衣類の入れ替えもお願いしている	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの筆筒や椅子、机等を持ち込んで配置し、自宅と違和感のないように配慮して、利用者が安心して穏やかに過ごせる環境整備に取り組んでいる。また、エアコンや介護用ベッドが備え付けで安全に配慮し、居室の換気、清掃に気を配り、居心地良く過ごせるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、杖使用、車いすの方にも、スムーズに移動が出来るよう段差のない環境、要所要所に手すりの設置、引き戸の設置、等において、個人個人の自立に向けた環境づくりを支援している。		